

令和2年度 研究の概要

大仙市立花館小学校

研究主題

主体的に学び，豊かに表現し，
考えを深める子どもの育成

1 研究主題設定の理由

①児童の実態から

本校児童は、素朴で明るく、他を思いやる、優しさをもつ子が多い。また、学校行事等に意欲的に取り組み、周りとの協力し合って楽しく活動する様子が多く見られる。一方、多様な困り感を抱えている児童も多い。

児童の調査などからは、学年が上がるにつれて自己有用感が低くなる傾向があり、自分のよさについての自覚が薄いことも明らかになっている。保護者もまた、学校生活では個性を伸ばし、お互いを認め合いながらよりよい人間関係を築いて友達と仲よく過ごしてほしいと願っている。

学習面では、与えられた課題には前向きに取り組んだり、積極的に自分の考えを発表したりするが、学び合いの場面において自分の考えを分かりやすく説明することが苦手な傾向にある。また、友達の影響を受けて自分の考えを広げたり深めたりしていくことに課題があると考えている。さらに、諸調査の結果では、算数が学力低下の傾向にあり、危惧されている。

②昨年度の研究から

昨年度は、これらの実態や願いを受け、児童一人一人が自分のよさを生かし、さらには個性を伸ばして自分らしさを発揮しながら、調和のとれた自己形成が図れるように道徳や特活の時間の授業の実践研究を重ねてきた。その結果、相手を思いやった言動が増え、特に縦割り活動などでは、学年を超えて互いに仲良く活動を楽しむ姿が多く見られるようになってきている。

また、児童一人一人が、分かった・できた喜びを実感できるように、ユニバーサルデザインの視点からの授業改善を図り、全員参加の質の高い授業を目指して、各教科の特性を考えた授業研究を実践してきた。さらに「花館小 教えのきほん」に基づいた主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善を行うことで、「思考力、判断力、表現力等」を育成し、知識や技能を幅広く活用していく能力が身に付くよう取り組んできた。特に、課題となっていた学び合いの場面では、話型を活用したり、理由や根拠を明確にして自分の考えを伝えたりする活動を繰り返し行ってきた。さらに、一人一人が学びの深まりを実感できるように、視点を与えた振り返りの充実を図ってきた。その結果、自分の考えを明確にもち、理由を説明しながら意欲的に発表する姿や協働的に学習する姿、新たな問いを見つけ、解決しようとする様子が見られるようになってきている。また学習アンケートの結果を見ると、昨年度よりは全体的に「花館小 教えのきほん」による探求型授業が浸透したといえる。学力低下傾向にあった算数も、習熟度別少人数学習や家庭学習の充実により向上してきている。

しかし、昨年度の課題として、学び合いの場において、児童にとって必要感のある話し合いの場面設定や、「交流タイム」（全体での学び合いの場）で、一人一人の学びの深まりを実感させるための教師側の手立てが不十分であることが明らかとなった。

そこで、今年度は、特別活動や道徳で個の自己有用感を高め、豊かな人間関係を構築し、よりよく生きる力を身に付けることで学習の基盤をつくることと、ユニバーサルデザインや「花館小 教えのきほん」に基づいた主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善を図り「分かる・できる」喜びを実感させながら、思考力・判断力・表現力等を育成していくことの二つの柱は継続し、内容の質的な改善を図りたいと考えている。

また、「目指す子どもの姿」を実現するために、PDCAサイクルを機能させ、組織的に校内研修を進めていきたい。

2 研究の重点

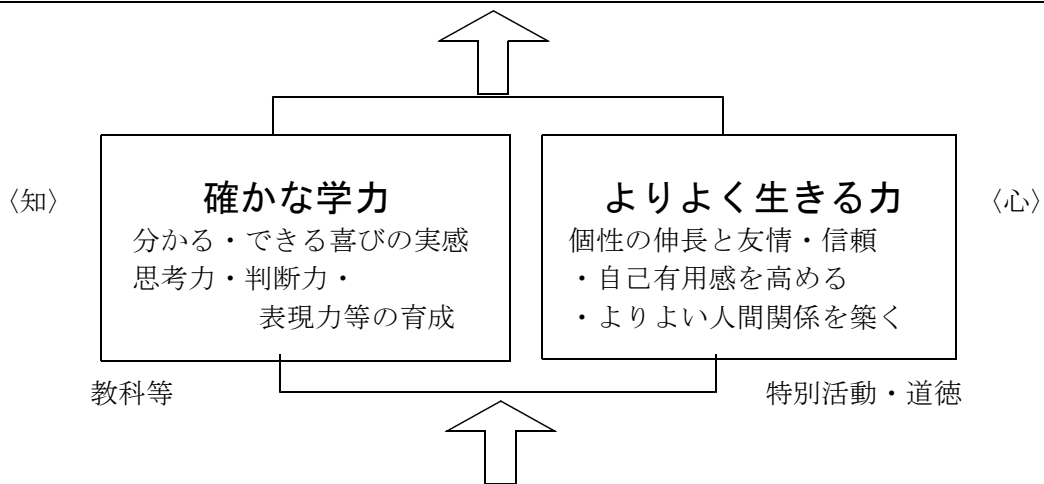
(1) 仮説

- ① 「花館小 教えのきほん」に基づいた探究型授業を展開することで、主体的に学習に取り組み、学び合いを通して自分の考えを広げたり深めたりして学びをより深めることができるようになるだろう。また、振り返りの充実を図ることで「分かった、できた」喜びにつながり、次への意欲をもつことができる子どもを育成できるであろう。
- ② 学習を支える基盤として、特別活動や道徳の時間を充実させることで、お互いを認め合ってよりよい人間関係を築き、他と学び合う心を育むことができるだろう。

(2) 目指す子どもの姿と共通実践事項

① 目指す子どもの姿

- ・主体的に自分の思いや考えを表現し合うことを通して、考えを深める子ども
- ・自分や相手のよさを認め合い、互いに助け合うことができる子ども



- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
- ・「花館小 教えのきほん」による探究型授業の実践の継続

授業改善
環境整備

- ・ユニバーサルデザインの視点からの授業改善

研究教科→算数

② 共通実践事項

I 確かな学力の向上

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- 身に付けたい力の明確化
- 「花館小 教えのきほん」に基づく探求型授業の実践の継続

課題や見通しをもたせる工夫

- 児童の問いを引き出すための魅力的な導入
- 児童の言葉をいかしたためあての設定
- 既習事項の想起の工夫（掲示物等の活用）

学び合いの場の充実

- 思考の視覚化（ホワイトボード、付箋、短冊等）
- 必要感のある話し合いの場の設定
- 「交流タイム」（全体での学び合い）の充実
 - ・聴く姿勢の徹底
 - ・根拠を明らかにしながら順序立てて分かりやすく発表する習慣付け
 - ・話型とハンドサインを活用した発表の場の設定
 - ・比べながら聴く→反応する→つなげて話す習慣付け
 - ・学びを深めるための教師によるコーディネート
（意図的指名やゆさぶり、問い返し等の発問の工夫）

振り返りの充実

- 視点を示した振り返りの充実
- よい振り返りを取り上げ、価値付ける取組

② ユニバーサルデザインの視点からの授業改善

- 授業の焦点化，視覚化，共有化
- 教師のノート作り→共有財産へ

③ 家庭学習の充実

- Aメニュー（基礎・基本）とBメニュー（活用，書く力をつけるための学習）の継続
- 強調週間（年4回）6月，9月，11月，2月
- 7年部の先生からのコメント
- ノートの紹介（廊下や教室にコピーを掲示，学年通信，学習公開日のノート展示）

II よりよく生きる力の充実（特活，道徳の充実）

○学習を支える基盤として，一人一人が自己を見つめ，他と学び合う心を育む

- ・互いの価値観を認め合える，相手を尊重し合う学級集団づくり
学級活動（話し合い活動の充実）で自己有用感を育む
- ・全教育活動に関わる道徳教育の実践と道徳の授業実践研究
別葉による計画的な指導 考え・議論する道徳の時間
- ・子どもの変容の見取り
年間を通じて子どもの変容の記録を積み重ねる道徳ファイル
- ・道徳コーナーの継続活用
学年部で道徳の時間や重点内容項目に関する紹介をする
- ・道徳配信
全ての学級で道徳の授業を公開（1年のうち1回は学習公開日で公開する）

3 研究の柱

① 確かな学力の向上

楽しく「分かる・できる」学習で「思考力、判断力、表現力等」の育成
「花館小 教えのきほん」に基づく主体的・対話的で深い学びの視点やユニバーサルデザインの視点からの授業改善

② 特別活動及び道徳の時間の充実

学習を支える基盤として、一人一人が自己を見つめ、他と学び合う心を育む

『学びのユニバーサルデザイン』をキーワードとした教育活動の充実

- ① 特別支援教育の考えを生かし、すべての学級で“学びのユニバーサルデザイン”を意識した授業改善に努め、授業の質の向上を図る。授業においては「焦点化、視覚化、共有化」を図り、児童一人一人にとって分かりやすい授業を目指す。特に算数においては、児童のノートと板書がリンクするように教材研究の段階で「教師のノート作り」に取り組む。

そして各教科において、言語活動の充実を通して「思考力、判断力、表現力等」の育成を図り、確かな学力を身に付けさせる。児童の思考力・判断力・表現力等を育むために、基礎的な音読や詩の暗唱、国語辞典の活用を図り、高学年においては、記録・説明や論述といった知識・技能を活用する学習活動を行い、言語の能力を高めるようにする。

家庭学習では、基礎・基本のAメニューだけでなく、活用・書く力をつけるためのBメニューにも取り組む。その際、子ども新聞等を積極的に活用し、感想や自分の考えを書く習慣を付けていくようにする。

また、学び合いの段階における「交流タイム」や「教師による発問の工夫（ゆさぶりや問い返し）」を重視した共有化に焦点をあてて、効果的なインタラクション（相互作用）によるより質の高い授業を目指す。そして、授業のゴールの段階におけるねらいを達成した子どもの姿を具体的に捉えつつ、リフレクション（自己内省）を意識したまとめや振り返りの表現を確かに見取ることを共通実践していく。

- ② 本校の道徳教育の重点指導事項「個性の伸長」「友情・信頼」に沿って段階を追った指導を重ね、『自主・自律』『よりよい人間関係』を目指す。また、本校の重点指導事項について、特別活動が人間関係形成力を育成する大切な教育活動であること、道徳的实践を担う大切な教育活動であることをふまえ、「花館小 教えのきほん」に掲載された学級活動の共通実践事項を全学級で計画的に積み重ねていく。そして、学級活動で培った学級集団の人間関係や一人一人の心の成長を基盤に据え、自己の生き方について考えを深め、生きる自分への自信をもたせる。さらに、道徳の教科化を意識し、道徳教育の要である「道徳の時間」の充実を図り、さらに特活で道徳的实践力を育む。

- ③ 初任者研修については、校内研修が円滑に実施されるように、校内の協働的な指導体制を整備し、全教職員の共通理解の下、実践的な研修を計画的・継続的に行うようにする。また、「初任者を学校全体で一人前の教員に育てる」という使命感や、「初任研は、自分たちの研修の場でもある」という自覚を全教職員がもち、全教職員が一致協力して初任者の成長を助けようとする雰囲気大切に作る。

- ④ 関係各位の指導をいただきながら、先進校視察及び各種研修会に積極的に参加し、その成果を共有し、教育活動に生かす。